

「新潟県村上市・胎内市沖地域部会鮭有識者ヒアリング資料」

本文へ 初めての方へ 事業者の方へ Foreign Language 閲覧補助 音声読み上げ マイページ

新潟県 NIIGATA PREFECTURE

防災情報 分野別 目的別 組織別 現在の新潟

サイト内検索 詳細検索

検索

所在地 [トップページ](#) > [分類でさがす](#) > [しごと・産業](#) > [エネルギー・情報化](#) > 洋上風力発電導入研究会 村上市・胎内市沖地域部会について

洋上風力発電導入研究会 村上市・胎内市沖地域部会について

重要なお知らせ

[新型コロナウイルス感染症 新着情報・まとめ](#)

[新型コロナウイルス感染症 各種情報の目次](#)

[雪に関する被害や事故が発生しています 十分に注意してください](#)

ページ番号：0329314 更新日：2020年11月6日更新

村上市・胎内市沖における洋上風力発電の導入の可能性や課題について、関係者間で検討していただくため、村上市・胎内市沖地域部会を設置しています。

このページを見ている人はこんなページも見えています

[洋上風力発電導入研究会についてはこちら](#)

[洋上風力発電導入研究会について](#)

第1回（令和元年11月19日）配付資料

[次第 \[PDFファイル/59KB\]](#)

[参加依頼機関・団体一覧 \[PDFファイル/51KB\]](#)

[資料1 新潟県洋上風力発電導入研究会 村上市・胎内市沖地域部会の設置について \[PDFファイル/1.18MB\]](#)

[資料2 再エネ海域利用法の運用及び対応について \[PDFファイル/884KB\]](#)

[資料3 今後の進め方について \[PDFファイル/71KB\]](#)

[参考資料1 新潟県沖洋上風力発電ポテンシャル調査結果（平成28年） \[PDFファイル/388KB\]](#)

[参考資料2 洋上風力発電の導入に係る課題等について \[PDFファイル/549KB\]](#)

[「村上市・胎内市沖における洋上風力発電に関するフォーラム」を開催しました](#)

[（コピー）新型コロナウイルス感染症について](#)

[県内の発生状況](#)

[（コピー）新型コロナウイルス感染症について](#)

第2回（令和2年7月14日）配付資料

[次第 \[PDFファイル/128KB\]](#)

[参加依頼機関・団体一覧 \[PDFファイル/51KB\]](#)

[資料1 今年度の国の有望な区域の選定等の結果について \[PDFファイル/872KB\]](#)

[資料2 前回地域部会やヒアリングにおけるご意見と対応の方向性について \[PDFファイル/244KB\]](#)

[資料3 サケに関する有識者へのヒアリング \[PDFファイル/164KB\]](#)

[資料4 洋上風車による集魚効果及び回遊魚への影響の確認調査 \[PDFファイル/1.81MB\]](#)

[資料5 景観調査について \[PDFファイル/6.48MB\]](#)

[資料6 今後の進め方について \[PDFファイル/424KB\]](#)

[参考資料 \[PDFファイル/14.79MB\]](#)

見つからないときは

新型コロナウイルス感染症

警報 発令中

感染防止対策を徹底

冬の注意喚起情報

雪への警戒万全に

雪下ろしに活用！ 雪おろしシグナル

新型コロナお知らせシステム

“もしも”に備える
「新しい生活様式」

新潟県公式アプリ 新潟県防災ナビ

第3回（令和2年10月16日）配付資料

[次第 \[PDFファイル/85KB\]](#)

[参加依頼機関・団体一覧 \[PDFファイル/51KB\]](#)

[資料1 村上市・胎内市沖地域部会における主なご意見と対応の方向性について \[PDFファイル/179KB\]](#)

[資料2 洋上風車による集魚効果及び回遊魚への影響の確認調査 \[PDFファイル/5.57MB\]](#)

[資料3 景観調査 \[PDFファイル/10.71MB\]](#)

[資料4 これまでのゾーニング検討経緯 \[PDFファイル/931KB\]](#)

[資料5 ゾーニングマップ \[PDFファイル/6.03MB\]](#)

[資料6 事業想定区域（案）について \[PDFファイル/3.85MB\]](#)

[資料7 今後の進め方について \[PDFファイル/423KB\]](#)

[参考資料 海岸浸食について \[PDFファイル/776KB\]](#)



PDF形式のファイルをご覧いただく場合には、Adobe社が提供するAdobe Readerが必要です。
Adobe Readerをお持ちでない方は、バナーのリンク先からダウンロードしてください。（無料）

このページに関するお問い合わせ

[産業労働部](#) [産業振興課](#)

新エネルギー資源開発室

〒950-8570 新潟県新潟市中央区新光町4番地1 新潟県庁行政庁舎11階

Tel : 025-280-5257 [メールでのお問い合わせはこちら](#)

シェア [Tweet](#) [LINEで送る](#) [県公式SNS一覧へ](#)

新潟県庁 法人番号 5000020150002

〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1

電話番号：025-285-5511（代表）

8時30分から17時15分まで、土日・祝日・年末年始を除く

[県庁へのアクセス](#)

[県庁舎のご案内](#)

[直通電話番号一覧](#)

[メンテナンス](#)

[サイトマップ](#)

[ガイドライン](#)

[個人情報の取扱い](#)

[免責事項](#)

[RSS配信について](#)

[リンク集](#)

PCサイト表示

スマホサイト表示

Copyright © Niigata Prefectural Government. All Rights Reserved.

サケに関する有識者へのヒアリング

1 対象者

北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 生態系変動解析分野
海洋資源科学科

宮下 和士 教授

研究分野 環境学、環境動態解析 水産学、水産学一般

主な委員歴

2019年5月～ 水産庁 水産業の明日を拓く スマート水産業研究会 会長

2018年4月～2020年3月 サケ学研究会 会長（現在、幹事）

2017年4月～ 北太平洋科学機構（PICES）国際サケ年（IYS）日本 代表委員

2 日時 令和2年6月2日

3 ヒアリング結果

(1) サケの回遊経路

- サケにはいくつかのセンサーがある。サケがベーリング海から母川に戻ってくる時には、地磁気やその他の感覚器を使って母川の近くまでやって来て、最後は嗅覚で母川の臭いを嗅ぎ分け見つけ出す。
- サケが具体的にどういうルートや空間を利用しているのか、まだはっきりとよく分かっていないが、サケは温かい水を避けて空間的に移動する傾向がある。基本的には母川に戻ってくるまでにエネルギーを消費しない低い水温域を通る。昼間は水深の深いところを泳ぐ。川の水は密度が低く軽いので海では表層を這うように流れる。夜間になると母川探索行動を取る傾向が大きく、臭いを嗅ぐために表層に上がってくる。このことから、沖合から母川に向かうものと思われる。
- 村上のあたりではサケが母川に戻る時期はだいたい12月くらいだが、その時期は、まだ対馬暖流の勢力が強く、水深の深いところをルートとして移動すると思われ、風車が設置された場合にその空間を利用する確率は高くはないと思うが、ないとはいえない。
- サケが移動してくる時期の立体的水温構造が分かれば、相対的に一番冷たい空間を利用するはずなので、推定はできるかもしれない。事業実施前に、海洋でサケを確保できるのであれば、電子記録計・発信機を装着し、その行動を計測する「バイオリギング手法」などを活用してサケの移動も同時にモニタリングし、水温環境とあわせて検証することを勧める。

(2) 風車の影による影響

- サケは、河川や浅い海(数メートルとかせいぜい10m未満)で空間的にそこを利用しないとイケない海域の近いところに風車があれば、その動く影で逃げることはあると思うが、海では基本的に昼間は冷たい深いところを泳ぐ傾向があって、20～30メートルの水深のできるだけ深く冷たいところを探す。(影ができない)夜になると、においをかぐために表層に行く傾向がある。

- 沿岸や河口域に風車がある場合には、もしかしたら影響を受けるかもしれないが、その場の反応として逃げるということはあるけれども、必ず母川を遡上しなければならないので、逃げるという行為があったとしても、川を上るということは間違いのないため、それほど大きな影響は起こりえないのではないかと考える。

(3) 風車の音による影響

- サケなどの魚類には、高周波に対する超音波聴覚といったものはないので、高い周波数については影響を受けないが、低周波、超低周波については、生物に対して影響を与えるという話がある。他の環境影響評価の事例を参考にしながら、実際に評価していくのがよいのではないか。
- 洋上で母川から数キロ離れているのであれば、それほど影響がないと思われるが、風車の近くで母川回帰に必要な感覚器が阻害（破壊）され、結果として何かしらの影響があるかもしれないことは否定できない。

(4) 風車の集魚効果（魚介類の現存量の増加）による影響

- 漁礁に集まってくる魚の空間利用は、魚によって異なる。例えば、メバル、キジハタなどは、より漁礁に近いところで、エサを食べるタイミングは夜になる。カマスなどは、回遊性があるので、若干空間的に離れたところで、漁礁の集魚効果に関係なく回遊する。
- サケの稚魚が、光に対して蝟集することは報告されているが、漁礁のような構造物に蝟集するといった習性はこれまで報告されていない。ただ、このような研究は評価が難しく実施されていない可能性もある。たまたま一部のサケの稚魚が移動するルートに風車があつて、なおかつ風車に集まった魚がエサを食べる時間帯であれば、捕食されることになるが、それで資源が大きく減少することはないと思われる。
- 風車による集魚効果は、沿岸に造成されている人工漁礁と同じはずである。サケの戻り方、生存率が資源の大きさを決めることになるので、漁礁の設置前後に減ったかどうかを調べれば、予測はできるとと思われる。事業実施前にサケ稚魚が海洋に降りる時期に漁礁周辺に蝟集しているかどうか実証実験（調査）を実施することを勧める。

(5) 調査の実施方法について

- 事業者には社会的責任というものもしっかり担ってもらうためには、事業者がそれなりの調査をやってもらう必要があると考えている。
- まず、専門家や漁業者の意見を聞きながら、既存の統計、データにより、洋上風車を設置する可能性がある海洋環境について、客観的かつ科学的に整理し、必要な調査や評価を実施するべきである。